

民報 藤島

2026年 6月28日

第1547

編集発行
日本共産党藤島支部

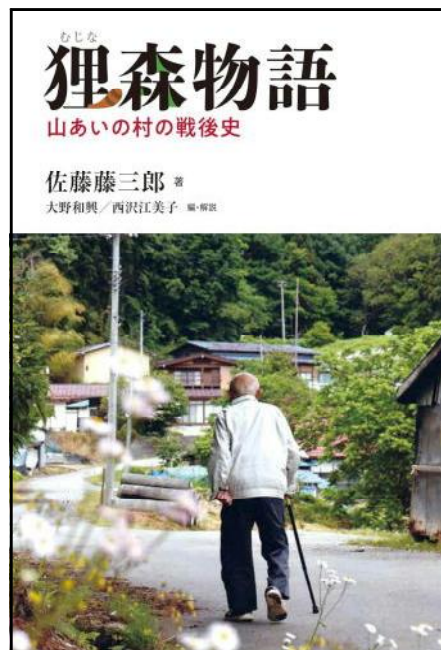
生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」
と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いしています。民報
配布者にご連絡下さい
（月200円程度）
6月 36人 29,320円
5月 32人 21,630円

昭和30年代頃まで300戸、2000人が暮した山元村は、2023年には99戸、219人になった

『狸（むじな） 森物語
山あいの村の戦後史』
（社会評論社）

著者・佐藤藤三郎氏は1935年、山形県上山市狸森（むじなもり）生まれの91歳です。狸森は、山形県上山市の北西の端にある山村、旧山元村の一集落です。



佐藤藤三郎著『狸森（むじなもり）物語』社会評論社6月1日発売

急傾斜の畑と田んぼ、山仕事で生きてきた著者が、農業ジャーナリスト・大野和興氏から「戦後80年の農業と農村史」の執筆を勧められて誕生した本です。著者は中学校で無着

成恭と出会い、「山びこ学校」で級長を務めました。無着成恭は、子どもたちが生活のありのままを作文に書く教育「生活綴方」を実践。生徒43人の詩や作文を収め

た学級文集「山びこ学校」が1951年に出版され、ベストセラーになりました。著者が生まれ育ち住み続ける狸森は、いま「消滅」しかねない状況にあります。

任期満了に伴う庄内町議選（定数13）が21日投票開票され、日本共産党の工藤のり子氏が8期目の当選です。



＜選挙結果＞		
小野	一晴	941
吉宮	しげる	820
石川	たもつ	772
奥山	やすひろ	667
石川	たけとし	665
工藤	のり子	611
国分	ひろみ	591
伊藤	かずみ	588
渡部	いくこ	538
上野	ゆきみ	537
加藤	かつのぶ	505
スルタンヌール		447
関口	由美	376
原田	浩	325

投票率 52.7% 前回 63.1%

昭和30年代頃まで300戸、2000人が暮した山元村は、2023年には99戸、219人になり、道路管理など共同生活の維持が困難になりました。満洲開拓団への送出国と敗戦から農地改革、山と炭焼きと焼畑、田んぼと米、青年団活動、うたごえ、村と営農の軌跡が綴られ、農民なら誰もが「自分のことだ」と共感する文章が綴られます。農業ジャーナリスト・西沢江美子の「解説I」と、大野和興氏の「解説II」もあります。

ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

先日の八栄島地区敬老会に出席し、実行委員会から数え年100歳の記念品を戴き、この上ない喜びで感謝申し上げます。

松嶺街道

私の住む八色木は、

かつて鶴岡（庄内藩）

と松嶺（松山藩）を結

ぶ松嶺街道の中間に位置し、藩政時代には大名行列がここを通り、

清川で最上川を遡上した際の休憩地であった。飯鉢忠左衛門家には

「御休憩」の立て札が残っている。飯鉢家の

姓は松山藩から下賜された全国でも一つしかない珍しい苗子である。

「飯鉢（はんぱち）食事や弁当・炊き出しの意」を開く場所であり、

八色木薬師堂の縁起と深く結びついていた。

松嶺街道は下町の村はずれに「休み石」があつて、盛り上げた所に松の木が植えてあり、中田さんの家で、村人たちは『松の木』と呼んでいた。婆さんは八色木の生まれで、気さくな人で電気料の集金をしていた。

藩政時代の下町のはずれあたりは、茶屋や飲食店、休憩所で賑わった。

このあたりは「因幡堰」と「新堰」の合流点で、松嶺街道沿いに流れた後に豊栄・八色木方面へ分水される。この下流を「大堰」と言っている。

少し曲がりくねった水路と道路が併行した所が羽越線踏切であり、今は跨線橋になったが、ここから眺める庄内平野は絶景である。

1995年8月から始まったアジア学院留学生の庄内研修が、コロナ禍の休みを除き29回目を迎えます

鶴岡市有機農業推進協議会

日時	研修	備考
7月13日(月)	到着 対応(佐藤直樹・加藤鉦一)	宿泊：佐藤直樹宅(宝徳)
7月14日(火)	9:30 庄内たがわ農協 12:00 昼食 14:00 鶴岡市エコタウン室	五十嵐営農企画課長 担当：疋田大 宿泊：佐藤直樹宅(宝徳)
7月15日(水)	9:30 富樫藤左工門 11:00 小野寺農園 12:00 昼食(農家レストラン菜あ) 13:00 五十嵐農園 14:00 庄内協同ファーム	富樫俊悦 小野寺喜作 " 五十嵐勇輝 代表：小野寺紀允 宿泊：佐藤直樹宅(宝徳)
7月16日(木)	9:30 荘内教会保育園 12:00 昼食(荘内教会保育園) 13:30 SEADS 16:00 出羽庄内国際村 18:30 国際交流の集い(出羽庄内国際村)	園長江口充 校長百瀬清昭 担当：佐藤幸 宿泊：佐藤直樹宅(宝徳)
7月17日(金)	8:00 出発	

渡前小子ども獅子踊り今昔物語

藁(わら)文化の里 ⑦

渡前獅子踊り保存会 太田 功

「井赤と白との鉢巻きは：勝てや勝てや渡前健児」

があつた。藤島小児童だけが真新しいズックを履き黄色や白の鉢巻き

く、ズック組を尻目に、裸足勢でゴールを争った。

連合運動会会場の藤島小学校へは、学校から西渡前の東外れの大排水堰に沿って歩いて進む。道すがら、先の応援歌や校歌を歌わせながら、教師たちは児童を鼓舞し、記録更新とメダル獲得に燃え、自らも声を高くする。

号砲とともに、足の回転が速くなっている自分が居た。何故なら、土の表面がやたらにチクチクしていたからだ。後に聞いて判ったが、石炭ガラを撒いていたのだった。

く、ズック組を尻目に、裸足勢でゴールを争った。

当時メーカーの印はズックに無かったものの、皆韋駄天のように走るのだろうと、気落ちしていた。

ほとんどが午前中で終了し、動きの大きい種目は消え去った。

学校の畑には夜も開けぬうちから通い、地吹雪祭では炭をおこし弁慶飯を焼いた。

ついた先は、倍ほどの面積のあるグラウンド。測れば同じ100mだろうに、広く遠くに感じたものだ。

当時、本部テントのアナウンス部長は幕野内の城戸豊作さん。すべての種目の内容と段取りに精通していた。

選手紹介を屋号入りで行う。まるで戸籍係がマイクを握っているかのような。

後年は、名口調の柳久瀬の今野朋明氏と筆者がマイクを持つこともあったが、しゃべりすぎてスイッチを切られることもあった。

（写真は旧藤島町農協時代、藁文化大祭での「棧俵投げ」競技の様子）



スタートラインに着くまでに気づいたこと

鉢巻きの色はともか

と段取りに精通していた。

雑詠

雑詠

城貞（藤の花）

宵天時候半晴陰

宵天

時候

晴陰

半ばす

梅肉含酸浸齒深

梅肉

酸を含み

齒

深に浸む

従昔氷肌真可愛

昔

従り氷肌

真に愛す

可し

紫蘇入酒値千金

紫蘇

酒に入る

値

千金

梅干しの季節のこの頃の天気は 晴れたり曇ったり。熟した梅の実を口に入れると 酸っぱい味が齒の根までしみこむ。

昔から梅の花はほんとうに 大切にすべきだという。

それはやがて、実になる梅を梅干しや梅酒の材料となり 千両の価値があるからである。

雑詠Ⅱ特に題を決めないで色々の物を詠んだ詩歌。

宵天Ⅱ大空。時候Ⅱ季節。

半晴陰Ⅱ晴れたり曇ったり。

梅肉Ⅱ果肉。浸Ⅱしみこむ。

従ⅡⅢから。氷肌Ⅱ梅の花の形容。

真Ⅱ本当に。愛Ⅱ大切にする。

紫蘇Ⅱ匂いのよい一年草で梅干しの材料。

千両Ⅱ価値が大である。



きびちよ



あれから一年

思えばあれから一年

過ぎたのだ。あれとは、腎臓がんの手術の事だ。

右腎臓の上部にがんが見つかり、それを除去したのだが、以後の日々は、手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな

ない。手術前と何も変わらな